

校長室だより第32号（令和7年11月25日）

この3連休を使って、長野に住む親戚に会いに行きました。その一人が母の妹、つまり叔母にあたり、農家を営んでいます。

今は、ちょうどりんごの収穫期。たくさんりんごが木になっています。皆さんはその様子を見たことがありますか。実は私は今回が初めてです。

ここで問題です。

1本のりんごの木にはいくつくらいりんごがなっているでしょうか。

A: 100個くらい      B: 300個くらい      C: 500個くらい      D: それ以上

少しだけ考えてみてください。

正解は～～～～～～～「D」のそれ以上です。それも1000個に近いほどです

びっくりです。りんごをもいでも、もいでもなくならないほどです。

叔母の家には30本ほどのりんごの木があるので、単純に計算しても3万個近くのりんごがあるというわけです。

収穫のために、叔母の子どもたち（私の従兄弟に当たる）も家族を連れて畠に集合。大人数で収穫に臨みましたが、まだまだりんごはなくなりません。ちなみに私も少しだけお手伝いをしました。私と妻で合わせて500個くらいもぎました。もちろんりんごはまだまだ残っています。

1個のりんごを取るのはそれほど難しくはありません。しかし私が、もいだりんごが商品として店頭に並ぶかと思うと、丁寧に、そして慎重な作業となりました。それでも、へた（りんごの軸・頭のとび出ている部分）が取れてしまうことがありました。そうなると、見た目が悪くなるため、商品価値が下がります。そして、叔母に怒られます。（うそです。怒られません。ニコッと笑って許してくれます。）

12月になると雪が降り、りんごがだめになってしまないので、収穫は11月末までに終わらせなければならないそうです。全部のりんごを収穫するために今日も朝から奮闘している

ことでしょう。

ちょっと付け足し

私は店頭に並ぶ直前の収穫に立ち会いましたが、ここまで育てることがどんなに大変かがわかつていません。以下参考までに年間作業スケジュールを記します。

冬：剪定

春：肥料をまく。薬剤散布。受粉作業。

初夏：実の間引き。袋かけ。

夏：袋はずし。

秋：葉つみ。玉回し。（まんべんなく太陽の光があたるように、実を回すこと）

初冬：収穫

りんごだけでなくすべての農作物が、農家の勤労のおかげで生産されています。農家の皆さんありがとうございます。おいしくいただきます。